

石川県リハビリテーションセンターニュース

～平成28年度事業について～

目次

リハビリテーション技術支援ネットワーク構築事業	1
地域包括ケアに対応するリハビリテーションの構築	2
リハビリテーションセンター研修事業	3
難病相談・支援センター事業	4
高次脳機能障害相談・支援センター事業	5
虹の窓から「テクニカルエイドとユニバーサルデザインの推進」	6

リハビリテーション技術支援ネットワーク構築事業

[平成28年度]

障害のある人が、できる限り住み慣れた地域で本人の身体特性を活かした自立的な日常生活・社会生活ができるよう、身近な地域で相談及び福祉用具等を用いたリハビリテーション技術支援（以下、リハ技術支援）を受けられる相談支援体制づくりを目指して今年で4年目になります。

1 障害（児）者の自立に向けた支援機関連携モデル事業

障害のある人に関わる支援者が、実際の事例を通してケース検討会を行いながら支援者同士のネットワークを強化し、県内各地域で適切なリハ技術支援を提供するモデル事業を実施しています。

昨年度は、奥能登自立支援協議会、羽咋郡市障害者自立支援協議会、白山市、加賀市の4地域で相談支援専門員、リハ専門職、福祉用具専門相談員及び当センター職員等が連携し、障害のある人が自立的かつ快適な生活を営めるように「ほっとあんしんの家」や最新の福祉用具等を試用体験しながら具体的なリハ技術支援を実施しました。

今年度も県内3地域（自立支援協議会単位）においてモデル事業を展開し、各地域でリハ技術支援の普及、多職種によるチームアプローチの促進、相談支援体制の充実等に繋がることを期待しています。

2 補装具等の適合・供給人材スキルアップ事業

地域におけるリハ技術支援ならびに相談支援体制の充実を図るには、適切な補装具等を適合・供給できる人材のスキルアップが不可欠です。このため、今年度も下記の2つの研修会を実施します。

(1) 自立支援型サービスの視点を重視したプランニング実践研修（会場：県リハビリテーションセンター）

【目的】機能障害があっても福祉用具や環境調整により、その人らしい自立的な生活を実現するためのプランニング手法を学ぶことを目的に研修会を実施します。

【対象】相談支援専門員、介護支援専門員、市町職員、地域包括支援センター職員等

回	日時	内容および講師	備考
1	6月23日（木） 10:00～12:00	講義：身体の特性を活かした自立度の高い生活の実現をめざして 内容：福祉用具を用いて自立度の高い社会生活を実現する可能性とするために必要な視点を学ぶ 講師：NPOバーチャルメディア工房ぎふ 理事長 上村 数洋氏 金沢美術工芸大学 名誉教授 荒井 利春氏	講義形式
	6月23日（木） 13:00～15:00	講義：自立を視点においたプランニング実践とは 内容：能力を活かしたリハ技術支援の具体的なケアプランの実践例を学ぶ 講師：県内の相談支援専門員、福祉用具相談専門員、作業療法士	講義形式
2	7月15日（金） 10:00～13:00	講義：生活の中で活用する福祉用具の考え方 内容：生活の中で活用する福祉用具の基本的な考え方について実技を通して学ぶ （車椅子、コミュニケーション機器を中心） 講師：リハビリテーションセンター職員	演習形式
	7月15日（金） 14:00～16:00	講義：自立を視点においたアセスメントへの取り組みポイント 内容：見立てのポイント、関係機関との繋ぎについて学ぶ 講師：ケアマネウイズだいこんの花 社会福祉士 主任介護支援専門員 小島 操氏	講義形式
3	8月1日（月） 13:30～16:30	講義：事例演習 内容：実際に事例を用いてプランニングを行う 講師：ケアマネウイズだいこんの花 社会福祉士 主任介護支援専門員 小島 操氏	演習形式

(2) 補装具等に関する適合・選定・改良・製作等の実践的技術研修(会場：県リハビリテーションセンター)

【目的】 個々の身体特性に応じた補装具の適合には、医学的、工学的知識が必要になります。そのため、障害のある人へ適切な補装具等を活用したリハ技術支援ができる人材を育成することを目的に研修会を実施します。今年度のテーマは「コミュニケーション機器」です。

【対象】 医師、リハ専門職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）、福祉用具専門相談員 等

回	日時	内容および講師	備考
1	9月17日(土) 14:00~17:00	講義：生活の中でのコミュニケーションの捉え方(仮) 内容：コミュニケーションの概念や、支援を行う上での評価のポイントについて学ぶ 講師：国立病院機構 八雲病院 作業療法士 田中 栄一 氏	講義形式
2	10月22日(土) 14:00~17:10	講義：ニーズに応じたコミュニケーション機器の適合技術① 内容：機器の活用以外のローテクコミュニケーション支援について学ぶ その1：重度な障害のある方への対応(文字盤・口文字等) 講師：大阪援助技術研究所 作業療法士 池田 真紀 氏 その2：認知機能に障害のある方への対応(絵カード、玩具等) 講師：相談支援事業所さずな 相談支援専門員 笠合 竜明 氏	講義演習形式
3	11月5日(土) 14:00~17:00	講義：ニーズに応じたコミュニケーション機器の適合技術②～IT活用編～ 内容：パソコンやタブレットの機能、アプリ等を活用した支援について学ぶ 講師：日本福祉大学 健康科学部 福祉工学教授 渡邊 崇史 氏	講義演習形式
4	12月10日(土) 10:00~16:00	講義：ニーズに応じたコミュニケーション機器の適合技術③ 内容：障害者重度意志伝達装置等についての適合・評価と機器の特徴について学ぶ その1：重度な障害がある方へのコミュニケーション支援(仮) 講師：一般社団法人東京都作業療法士会 会長 作業療法士 田中勇次郎 氏 その2：重度な障害がある方へのコミュニケーション機器の理解(実習) 講師：県内企業、リハビリテーションセンター職員	講義演習形式
5	1月29日(日) 14:00~17:00	講義：コミュニケーション機器に関する制度 事例演習① 内容：補装具費支給制度、障害者日常生活用具について学ぶ ・事例演習① 講師：更生相談所職員、リハビリテーションセンター職員	講義演習形式
6	2月19日(日) 14:00~17:00	講義：事例演習② 内容：実際に事例を通したコミュニケーション機器の適合演習を行う 講師：リハビリテーションセンター職員	演習形式

注 詳細については各所属への送付案内または県リハセンターホームページ(<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/kousei/rihabiri/index.html>)をご覧ください。

地域包括ケアに対応するリハビリテーションの構築 [平成28年度]

子どもから高齢者まで住み慣れた地域で安心した生活が継続できるよう地域包括ケアが推進される中、リハビリテーションは機能障害を最適な状態まで改善しつつ、その人らしい暮らしができるように支援することが本来の目的であり、リハビリテーション活動がどのように地域で役立つのかを幅広く考えていくことが課題です。このため、H25年度から取り組んできた各市町におけるリハ技術支援ネットワーク構築事業と昨年度から実施している地域リハビリテーション活動支援事業の実績を通じ、高齢者や障害のある人の主体性を引き出すリハビリテーションの実践報告会(下記)を開催します。リハ専門職と地域包括ケア関連職種の方々のスキルアップ及びネットワークづくりの場として、多数ご参加いただければ幸いです。

日時	内容および講師
8月7日(日) 10:00~17:00	<p>I 特別講演 「地域包括ケアとリハビリテーションー主体性を引き出すリハビリテーションー」 講師：三軒茶屋リハビリテーションクリニック 院長 長谷川 幹 氏</p> <p>II 事業報告会 第1部 リハビリテーション技術支援ネットワーク構築事業 障害のある人の社会参加を目的としたネットワークづくり</p> <p>① 27年度事業報告 ・珠洲市、輪島市、能登町、穴水町(奥能登自立支援協議会)の取組み ・白山市の取組み ・羽咋市、志賀町、宝達志水町(羽咋都市障害者自立支援協議会)の取組み ・加賀市の取組み</p> <p>② シンポジウムー障害のある人の主体性を引き出す在宅支援をめざしてー</p> <p>第2部 リハビリテーション専門職活用支援事業 ・小松市・津幡町・かほく市・金沢市への地域支援事業の関わり</p>

1 リハビリテーション支援指導研修

リハビリテーション専門職やリハビリテーションに関わる職員の知識の習得や技術の向上を目指すための研修会です。

(1) リハビリテーション医療専門職研修

日 時	内 容 お よ び 講 師	会 場	対 象 者
6月18日(土) 14:00~17:00	講 義：地域現場で役立つ呼吸に関する機能評価と介入方法 講 師：兵庫医療大学 理学療法士 玉木 彰氏	県リハセンター	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等
7月31日(日) 13:30~16:00	講 義：地域生活を支える～社会的行動障害へのアプローチ～ ～精神科医として、家族として～ 講 師：なやクリニック 院長 納谷 敦夫氏		
10月1日(土) 14:00~16:30	講 義：障害受容とリハビリテーション(仮) 講 師：聖霊クリストファー大学 作業療法士 田島 明子氏		
1月14日(土) 14:00~17:00	講 義：高齢者・認知症のある方への摂食嚥下リハビリテーション 講 師：都立府中療育センター 言語聴覚士 山本 弘子氏		

(2) 教職員リハビリテーション研修

日 時	内 容 お よ び 講 師	会 場	対 象 者
8月8日(月) 13:00~16:30	講 義：発達に障害がある子どもの不器用 - 自閉スペクトラム症を中心に - 講 師：京都大学大学院医学研究科 准教授 加藤 寿宏氏 福祉用具・福祉車両の展示	ワークパル七尾	特別支援学校、特別支援学級、一般学級の教職員等

2 福祉用具研修

福祉用具に関する知識の習得や技術の向上を目指すための研修会です。

(1) 補装具研修

日 時	内 容 お よ び 講 師	会 場	対 象 者
6月11日(土) 14:00~16:30	講 義：補装具の支給制度を学ぼう！ 講 師：県身体障害者更生相談所職員、県リハセンター職員	県リハセンター	補装具契約業者、福祉用具専門相談員、リハ専門職等

(2) 職場環境改善研修

日 時	内 容 お よ び 講 師	会 場	対 象 者
12月5日(月) 13:30~16:20	講 義：①職場環境改善を目的とした福祉用具の活用(仮) 講 師：福久ケアセンター 石原 俊彦氏	県リハセンター	高齢者及び障害者関連施設の管理者等
	講 義：②職場環境改善を目的とした福祉用具の活用事例報告(仮) 講 師：のだの里 第二長寿園 梶山 宏士氏 寅口 隆氏、坂口 靖典氏		
	講 義：③職場定着支援助成金の事業説明(仮) 講 師：石川労働局職業安定部 石田 淳氏		

(3) 福祉用具活用研修

日 時	内 容 お よ び 講 師	会 場	対 象 者
8月30日(火) 13:30~16:00	講 義：利用者の自立度向上のためのシーティング(仮)知識編 講 師：特別養護老人ホームこすもす 副施設長 水上 直彦氏	県リハセンター	高齢者及び障害者関連施設職員等
9月25日(日) 未定	講 義：利用者の自立度向上のためシーティング(仮)実技編1 講 師：リハビリテーションセンター職員	県産業展示館 4号館	高齢者及び障害者関連施設職員等
10月15日(土) 未定	講 義：利用者の自立度向上のためシーティング(仮)実技編2 講 師：リハビリテーションセンター職員	県産業展示館 1号館	高齢者及び障害者関連施設職員等
2月5日(日) 10:00~16:30	講 義：利用者の自立度向上のためのシーティング(仮) リハ専門職編(講義・実技) 講 師：さくらメディカル株式会社 理学療法士 大淵 哲也氏	県リハセンター	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等

(4) バリアフリー啓発普及事業

日 時	内 容 お よ び 講 師	会 場	対 象 者
9月25日(日)	障害者ふれあいフェスティバルへの参加(予定) 内 容：福祉用具やユニバーサルデザイン用品の紹介および相談	県産業展示館 4号館	高齢者及び障害者関連施設関係者等

3 リハビリテーション技術支援ネットワーク構築事業

[プランニング実践研修、補装具等の適合・製作実践的技術研修] 本紙1~2ページ参照

難病相談・支援センターでは、難病患者とそのご家族が、病気や日常生活上の不安を軽減し、安心して療養生活を送ることができるよう、各種相談をはじめ、当事者との交流、研修会の開催、病気・就労に関する情報提供、福祉用具や住宅環境調整等の支援を行っています。

1 難病医療講演会・相談会

日 時	内 容 お よ び 講 師	会 場	対 象 者
8月26日(金) 14:00~16:00	講 義：腎臓系疾患（IgA腎症、多発性嚢胞腎、 一次性ネフローゼ症候群）について 講 師：金沢大学附属病院 血液浄化療法部 部長 古市 賢吾 氏	県リハセンター	IgA腎症、多発性嚢胞腎、 一次性ネフローゼ症候群 の患者、家族の方
10月18日(火) 14:00~16:00	講 義：肝・胆道系疾患（原発性胆汁性肝硬変、原発性硬化性胆道炎、 自己免疫性肝炎）について 講 師：金沢大学附属病院 消化器内科 助教 島上 哲朗 氏	県リハセンター	原発性胆汁性肝硬変、原 発性硬化性胆道炎、自己 免疫性肝炎の患者、家族 の方
11月13日(日) 14:00~17:00	講 義：慢性疼痛について ①内科における痛みの治療について 講 師：北村内科医院 院長 北村 康 氏 ②難病のある方への経済的支援について 講 師：医王病院 ソーシャルワーカー 中本 富美 氏	県社会福祉会館	難病患者、家族の方、医 療関係者、一般県民 等

2 ピアサポート研修、ピアカウンセリング

日 時	内 容 お よ び 講 師	会 場	対 象 者
8月3日(水) 13:30~16:00	基礎研修 講義とロールプレイング 「ピアサポートの心構えと傾聴の基本」(仮) 講 師：石川県立看護大学 看護学部看護学科 教授 武山 雅志 氏	県リハセンター	・ 県内の患者団体に属し、 ピアサポートに関心のある 難病患者・高次脳機能 障害者・小児慢性特定疾 病患者とその家族 ・ 原則両日受講可能な方
11月7日(月) 13:30~16:00	フォローアップ研修 講義とグループワーク 「ピアサポートの事例検討」(仮) 講 師：富山大学 人文学部 准教授 伊藤 智樹 氏		

3 セルフマネジメント研修

日 時	内 容 お よ び 講 師	会 場	対 象 者
9月5日(月) 14:00~16:00	講義と実技：難病患者と家族のための感情マネジメント 「自分の感情をよく知ろう」 講 師：医王ヶ丘病院 音楽心理療法士 朴 裕美 氏	県リハセンター	難病患者・家族の方 医療・保健・福祉関係者 等
10月3日(月) 14:00~16:00			

4 難病交流会

日 時	内 容 お よ び 講 師	会 場	対 象 者
毎月第2火曜日 13:00~16:30	疾病を限定しない難病患者と家族のための交流会 手工芸、音楽、体操、話し合い、簡単菓子作り 等	県リハセンター	難病患者、家族の方

5 就労相談会

日 時	内 容 お よ び 講 師	会 場	対 象 者
10月頃 13:30~15:30	ミニレクチャーと相談会： － 難病・高次脳機能障害のある方の就労について － 講 師：石川障害者職業センター職員	県リハセンター	難病患者、高次脳機能障 害者、家族の方

小児慢性特定疾病児童等自立支援事業に取り組んでいます。

県では、児童福祉法の改正にともなう小児慢性特定疾病医療費制度とともに、地域で暮らす小児慢性疾病児童等の「自立を支援する事業」を実施しています。当センターでは、慢性特定疾病の子どもたちやそのご家族からの相談をはじめ、難病患者支援におけるネットワークを活かし、教育機関や子どもの難病患者家族会とも連携しながら、病気を理解するための研修会や交流会を開催しています。お気軽にご相談ください。

◆相談窓口：076-266-2738

高次脳機能障害相談・支援センターでは、当事者や家族、支援機関等からの相談に対応するほか、各種研修会や教室を開催しています。

1 生活支援教室

生活支援教室は、高次脳機能障害のある人が日常生活や社会参加の適応を図るために、当事者同士の交流や活動を通じて障害の自己認識を高め、障害を補うための代替手段を獲得し、地域での安定した生活への移行を目的とした教室です。参加を希望される方は当センターまでご相談ください。

- ・時 間：毎週水曜日 10:00～15:00
- ・対象者：65歳未満の高次脳機能障害のある人で、集団活動に参加できる方
- ・内 容：スピーチ、体操、認知レクリエーション、グループワーク、外出、学習会等

2 高次脳機能障害者家族教室

日 時	内 容 お よ び 講 師	会 場	対 象 者
(第1回) 7月5日(火) 13:30～16:00	講 義：高次脳機能障害の理解と対応について 講 師：県リハビリテーションセンター 作業療法士	県リハセンター	高次脳機能障害者の家族
(第2回) 2月7日(火) 13:30～16:00	講 義：使える社会資源について 講 師：(第1回) 県立中央病院 医療相談室 永田 若菜 氏 (第2回) 金沢赤十字病院 医療福祉課 河原久美子 氏 講 義：家族会の活動について 講 師：高次脳機能障害患者と家族の会つばさ 会員 交流会		

3 高次脳機能障害者就労者のつどい

日 時	内 容 お よ び 講 師	会 場	対 象 者
8月27日(土) 13:30～16:00	自己紹介 レクリエーション(料理、軽スポーツなど)	ほっとあんしんの家	就労支援関係機関等を活用して一般就労している方等
12月10日(土) 13:30～16:00	話し合い(テーマ：「仕事について」など) *オブザーバー：就労支援関係機関の職員		

4 高次脳機能障害専門職研修会

日 時	内 容 お よ び 講 師	会 場	対 象 者
7月31日(日) 13:30～16:00	講 演：地域生活を支える～社会的行動障害へのアプローチ～ —精神科医として、家族として— 講 師：なやクリニック 院長 納谷 敦夫 氏	県リハセンター	医療・福祉・行政・教育機関職員

5 神経心理学的検査用具の試用貸出

当センターでは相談体制のさらなる充実を図るため、高次脳機能障害に関わる医療・福祉機関に対し、検査用具の試用貸出を行っています。検査用具の学習会開催や購入の検討などで、検査用具の試用をご希望される方は当センターまでご連絡ください。

例)・WMS-Rウェクスラー記憶検査(全般的記憶検査)

- ・日本版RBMTリバーミード行動記憶検査(日常記憶検査)
- ・D-CAT注意機能スクリーニング検査(全般的注意機能)・BIT行動性無視検査(半側空間無視)
- ・日本版BADs遂行機能障害症候群の行動評価(遂行機能障害) 等

「高次脳機能障害患者と家族の会つばさ」のお知らせ

毎月第3日曜日14時から、「ほっとあんしんの家」にて定例会を開催しています。料理教室や生活訓練キャンプ等の行事もあり、会場が変更となる場合もありますので、詳細については高次脳機能障害相談・支援センターまでお問い合わせください。

◆問い合わせ先：076-266-2188

「テクニカルエイドとユニバーサルデザインの推進」

リハビリテーションセンター 次長 高橋 哲郎

リハビリテーションは、障害や加齢によりそれまでの生活の変更を余儀なくされた方に対して、混乱から新たな生活の構築に向けて援助することであると言われてしています。その人らしい暮らしを実現するには、地域社会への参加の促進、共に生きる社会づくりが必要です。そのためには、障害のある人や高齢者の潜在能力をできる限り発揮できる環境整備と、障害があっても「自分らしい生活ができる」「豊かな生活ができる」といった「〇〇できる」という建設的な方向へ転換を図る支援が重要になります。この「できる」という知識（情報）を本人や家族の方々にできるだけ早く伝え体験してもらおう一つの手段として、福祉用具の適合や環境整備を用いた自立支援（テクニカルエイド）、ユニバーサルデザインのまちづくりがあります。これらの推進を目的にバリアフリー推進工房が平成8年4月に設置され、今年で21年目に入りました。

テクニカルエイドでは、当初から支援してきた障害のある方々も病気の進行や加齢による機能低下、介護者の疲労蓄積などの新たな問題が発生し、昨今ではこの対策が急務となり、ますます高度で緻密な技術支援が必要とされてきています。

また、ユニバーサルデザインでは、新県庁舎、いしかわ総合スポーツセンター、いしかわ特別支援学校、県立美術館等々の建設時に障害のある方々の参加をいただき、トイレ、洗面台、シャワールーム、エレベータ等の実物モデルを製作し、より多くの方が利用しやすい環境について検証を重ね、その結果を建物に反映する取組みを行ってきました。その甲斐あって健常者、障害者と区別することなく、より多くの方が共用できる場として広く利用され、社会参加の促進につながっています。

今後とも障害のある人や高齢者が、その人のできる力を維持しながら、地域と繋がりのある生活を実現するための更なる支援技術の向上や、地域包括ケア関連職種の方々との連携強化とネットワークづくりが当センターの重要な責務であると考えておりますので、皆様方のご支援ご協力をお願いいたします。



●進行に応じた車椅子の改造

●介助を軽減する移乗機器の利用 ●自動排泄装置の試用

●手の到達機能を補うリーチャーの製作

●便器に適合したシャワーチェアの改造

就労と一人暮らしの生活支援



当事者参加のユニバーサルデザイン検討会

問い合わせ先

石川県リハビリテーションセンター

TEL (076) 266-2860 FAX (076) 266-2864

E-mail iprc@pref.ishikawa.lg.jp

URL <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/kousei/rihabiri>

高次脳機能障害相談・支援センター

TEL (076) 266-2188 FAX (076) 266-2864

URL <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/koujinou/>

難病相談・支援センター

TEL (076) 266-2738 FAX (076) 266-2864

E-mail nanbyou@pref.ishikawa.lg.jp

URL <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/nanbyou/>

「相談は傾聴、親身、親切に」

リハビリテーションセンターでは
県民ニーズに応えるため、
より質の高いサービスの提供を
目指しています。

編集・発行

石川県リハビリテーションセンター
〒920-0353 金沢市赤土町ニ13-1